

# 年頭のご挨拶



月湯村長 金子 由征

謹んで新年の  
御祝詞を申し上げます



新年明けましておめでとうございます。  
謹んで村民の皆様へ新春のお慶びを申し上げます。  
12月1日天皇のお孫さんにあたる内親王殿下敬宮愛子様の御誕生は、新世紀の幕開けに相応しく大変意義深いものであり、2002年は希望に満ちた記念すべき年になるものと念じておるところであります。  
さて、本年は市町村合併の是非を選択するに極めて重要な年と位置付け思いを深くいたすと共に、月湯村の将来あるべき姿を村民の皆さんと共に検討し、村民の福祉向上を念頭に、慎重にして、且つ、勇気を持って英断をして参りたいと考えております。  
全国的において急激な情報化社会の進展、少子高齢化社会の進行、また、経済におきましても景気が悪化し雇用情勢はかつてない深刻な状況下に置かれております。  
このような立場から、昨年策定した行政改革大綱に基づき行政改革を積極的に進め、経費の削減を図りながら第4次総合開発計画に基づく「文化と活力のみみなる豊かで健やかなつきがたむらの創造」を目指し、平成14年度に向かつての取り組み方について申し述べさせていただきます。

## 保健福祉(2052)

誰もが健康で安心して暮らせる社会をつくることは、全ての住民の願いであります。  
誕生から晩年に至るまで、人には様々なライフステージが存在しますが、それぞれに応じたきめの細かい福祉施策を展開して参りたいと考えております。  
児童福祉におきましても核家族化や夫婦共働きが一般的になっていく今日、保護者の皆さんが安心して子育ての出来る環境をつくるため、保育園ではゼロ歳児保育や早期保育、延長保育を実施し、また、小学校低学年を対象に放課後の児童保育を引き続き実施しながら、御希望に応じて参りたいと考えております。  
高齢者介護は大きな課題の一つであります。平成12年4月に発足した介護保険制度により介護が必要な人へはいつでも介護が受けられることとなり、現在、デイサービスやホームヘルプサービス、特別養護老人ホームへの入所など多くの方が利用され、本人はもとより御家族の負担の軽減にも繋がっております。  
また、ノーマライゼーションの理念のもとで、障害者が地域で安心して暮らせる環境整備のため、障害者福祉の一層の充実に努めて参ります。  
人が健康で暮らせる寿命、いわゆる健康寿命の延伸を目標としながら、ライフステージに対応したきめの細かい健康診査や健康相談を行うと共に、引き続き人間ドック、脳ドックの受診補助を行い、がん、心臓病、脳卒中などの生活習慣病の予防や介護予防に努め、病気の早期発見・早期治療により健康の維持を図ると共に、医療費の支出を抑え、国民健康保険加入者の皆さんの負担軽減に努めて参ります。

## 農業振興(2052)

昨年は過去最大の生産調整配分を受けたところでありますが、関係各位の御努力と農家の皆様の御協力によりまして「生産調整100%」を達成することが出来たことを厚く御礼申し上げます。  
13年産水稲の作柄は全国ベースで「やや良」となったことを受けて、本年も昨年同様、過去最大規模の生産調整面積とされたところであります。大規模農家ほど厳しく、農家に限界感が強まり、昨年以上に生産調整の推進に困難が伴いますが、農家の皆さんの御理解と御協力をお願いいたします。

## 商工振興(2052)

依然として景気が低迷し厳しい状況にあります。

このような状況において、商工会と連携を取りながら経営の近代化、合理化の推進、融資制度の充実及び販売の強化等を推進し、商工業の振興に努めて参ります。  
更に雇用の場を確保するため、企業誘致にも積極的に努力して参ります。

## 土木事業(2052)

事業最終年度を迎える農村総合整備事業・月湯地区は、大別当地内の集落道の舗装、中ノ口川ふるさとづくり河川事業と連携を図りながら旧月湯駅の周辺整備に取り組み、それぞれ年度内完了に努めます。  
また、2年目に入る曲通地区におきましては、上曲通・下曲通地内の消雪パイプの布設、集落道の整備等に取り組みで参ります。

隣接村へのアクセス道路を確保するための県道路線付け替えや歩道等安全施設について、県営による事業化を引き続き働きかけて参ります。

工事に着手して5年目を迎える下水道事業は、上曲通地内を中心に管渠工事を進め、平成18年度の一部供用開始に備えます。

## 簡易水道(2052)

水需要の低迷が長期化傾向にあり、更に施設改善費の返済額の増加等により財政は依然として厳しい状況に置かれています。今後も経営の健全化に向け一層努力しながら、安全で良質な水を安定的に供給するため、老朽管の布設替えを推進して参ります。

## 防災(2052)

白根地域消防本部を中心に、消防団との広域的な連携により組織の強化を図ります。また、地域防災計画の見直しについても検討したいと考えております。

## 教育(2052)

平成14年度から完全学校週5日制が実施されますが、学校、家庭、地域社会の役割を明確にし、子どもたちの健やかな成長を目指します。  
学校においては、各教科や総合的な学習の時間で、読み・書き・計算などの基礎・基本の確実な定着を図ると共に、生活体験、文化・スポーツ体験や異年齢交流を通して、自ら学び自ら考える力を育てて行きます。

また、国際的な視野と感覚をあわせ持った青少年の育成を図るため、海外研修に参加する中学生、高校生に対し、引き続き支援して参ります。

奨学金につきましては、高校生や大学生のほかに、新たに専門高校生をその対象に加え、制度の充実を図り、保護者の経済的負担を少しでも軽減出来るように配慮して参りたいと考えております。

生涯学習には、昨年、開館5年目にして累計15万人の来館を頂きました村民図書館と、芸術性豊かな作品の創作活動に利用されております陶芸館を、地域住民の皆様の学習の拠点に位置付け、文化、芸術などの情報を発信して参ります。また、公民館を中心に文化協会や体育協会と連携を図りながら、社会教育活動の一層の充実を図って参ります。

年頭にあたり所信の一端を申し述べましたが、新しい年が皆様にとって幸多い年でありますようにお祈り申し上げます。年頭の御挨拶といたします。